

剤に、エタンブトール塩酸塩 (EB) あるいはストレプトマイシン (SM) を加えた4剤併用療法を2か月行い、その後INH + (RFPないしEB) を4か月間内服する。INHによる末梢神経障害やEBによる視神経炎に注意する。治療により結核疹が一時的に悪化することがある。

a. (真性) 皮膚結核 (true) cutaneous tuberculosis

1. 皮膚腺病 scrofuloderma ★

Essence

- 現在最も頻度の高い真性皮膚結核。とくに頸部に好発する。
- 無痛性の皮下結節で始まり、瘻孔を生じて排膿することが特徴的 (冷膿瘍)。
- 皮膚以外の結核病巣 (頸部リンパ節結核など) が連続的に皮膚に波及することにより生じる。

症状・病因

真性皮膚結核の一種で、肺やリンパ節、骨、筋肉、腱などの病変が連続性に皮膚に波及することで生じる。頸部リンパ節上に好発する。淡紅色で無痛性の皮下結節が生じ、数か月で軟化し、皮膚に瘻孔を形成して排膿する (図 26.1)。この際、発赤や熱感を伴わないことから、これを [冷膿瘍 (cold abscess)] と呼ぶ。陳旧性になると潰瘍や特徴的な索状瘢痕などを形成する。自覚症状に乏しい。

診断・治療

膿汁および組織から多数の結核菌を認める。組織や膿汁からチール・ネルゼン染色や抗酸菌培養、PCR法を行う。下床に連続して存在する結核病巣の治療を十分に行う。

2. 尋常性狼瘡 lupus vulgaris ★

Essence

- 顔面や頸部に赤褐色丘疹が出現、融合して浸潤隆起性の局面を形成。
- 皮膚以外の結核病巣から血行性、リンパ行性に生じる。
- 現在はまれである。
- 慢性に経過、まれに有棘細胞癌へと移行。

インターフェロン γ 遊離試験 **MEMO**
(interferon gamma-release assay; IGRA)



図 26.2① 尋常性狼瘡 (lupus vulgaris)
右頬部の浸潤性、隆起性、硬性の大型局面。

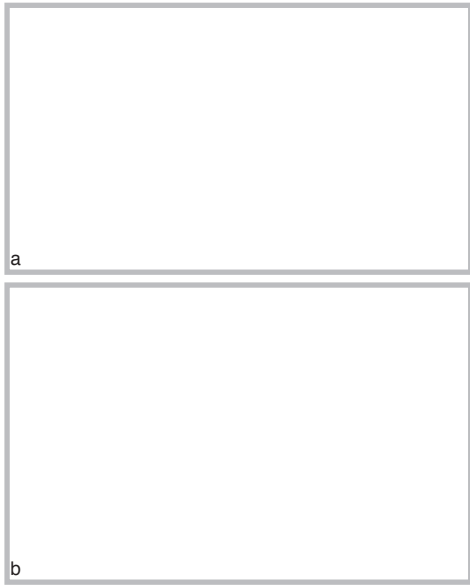


図 26.2② 尋常性狼瘡 (lupus vulgaris)
a, b: 鼻部に生じた浸潤性の局面。

症状

顔面や頸部、前腕に片側性に単発あるいは数個生じる。数個の赤褐色小丘疹が融合した紅斑局面で始まり、表面は落屑し中央は癬痕化する。癬痕の上に再発し、次第に拡大や融合を重ねて、大型で浸潤を伴う硬い局面を形成する(図 26.2)。通常自覚症状はない。辺縁部には赤黄褐色の小結節が存在し、この部分を硝子圧法で観察するとリンゴゼリーの中身のような黄褐色の構造がみられる。長年にわたり慢性に経過し、次第に潰瘍や萎縮などを形成する。有棘細胞癌に移行する場合がある。

病因

皮膚以外の結核病巣(リンパ節、肺など)から血行性およびリンパ行性に生じると考えられ、最初に結核菌に感染したときの血行性播種で皮膚に病巣結節が形成、それが再活性化することで発症するとも考えられている。

病理所見

真皮に Langhans 型巨細胞^{ラングハンス}などからなる類上皮細胞性肉芽腫を形成する。通常中心部に乾酪壊死^{えんし}を認めるが、認められない症例も多く、染色しても抗酸菌は認められないことが多い。

診断

臨床的特徴、病理所見、ツベルクリン反応強陽性など。組織やスミアからの結核菌培養は陰性のことが多い。膿汁からは培養陽性となりやすい。PCR法が有用であるが偽陽性に注意する。

鑑別診断

円板状エリテマトーデス、サルコイドーシス、梅毒、スポロトリコーシスなど。

治療・予後

抗結核薬によく反応し生命予後はよいが、癬痕を残す。治療によって急激な壊死や循環不全をきたし、大きな潰瘍を形成する場合があるので注意を要する。

狼瘡 (ループス, lupus)

MEMO 